

「危機の首相」の使命と条件とは

—どうなる「コロナ共棲」時代の日本政治

ノンフィクション作家、評論家
塩田 潮

- * 四人組会食の意味
- * 目標果たせなかった参院選
- * 首相たちの危機対応
- * 通常国会中の三つのつまずき
- * 組織的対応は経験不足
- * 憲法改正へのこだわり
- * 年内解散総選挙の可能性
- * 振り子の原理は動くか
- * 官僚が牛耳る弱体内閣
- * まず安倍訪中で先手を



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

ほぼ4カ月間、ホールでの講演会を中止し皆様にはたいへんご不便をおかけいたしました。今日も厳戒態勢の中でございますのでいろいろご不便をおかけいたしますが、ご容赦いただきたいと思います。講演録で予定されていただけは全てお伝えしているわけですが、少し遅れるということと直に講師の方のお話が聞けないというのはいへん心苦しいことでございます。5月中旬からは動画配信もしておりますが、先端技術もなかなかうまくいきなくてよく聞き取れないという方もいらっしゃると思いますので、制限つきではございますがこの場所でも再び講演を再開できるのは、たいへんうれしく思っている次第です。ただ、昨日の感染状況を見て

もまだたいへん難しい状況が続いておりますので、われわれとしてはこれから少しずつ緩んでいけばいいと考えております。それから、本日は帰りのエレベーターが混み合いますと密の状態になりますので、少しずつお帰りのたぐようお願いしますと思います。東洋経済の社員がコントロールするということですので、たいへん申しわけないのですが指示に従っていただければと思います。

本日はおなじみの塩田潮さんにおいでいただきました。改めてご紹介の必要もないかと思いますが、ノンフィクション作家として83年に文春から独立以来、霞が関、政治家、政治の裏、さまざまなことについてご本をお書きになり、東洋経済をはじめとして雑誌等でも健筆を振る